

鹿組 加丹 工波

シカを丸ごと活用

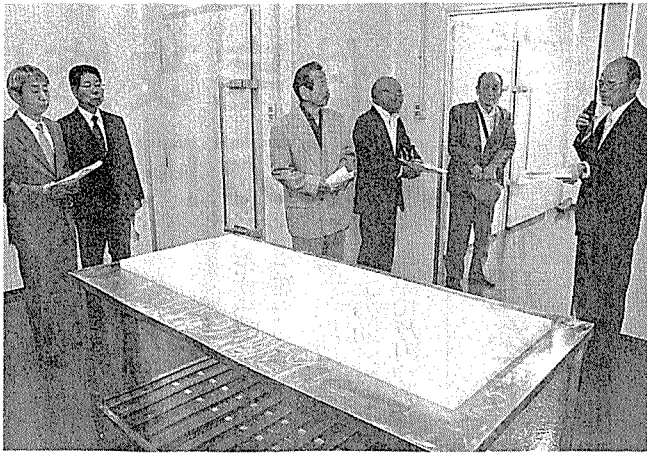
氷上に処理施設完成

農林業への被害軽減のため捕獲したシカを処理、加工する「シカ有効活用処理施設」が氷上町谷村に完成した。16日に竣工式が行われ、出席者約30人が施設を見学した。同施設では、年間約1000頭のシカを、1頭丸ごと処理できるという。鉄筋平屋建てで延べ床面積は約150平方メートル。面積は約150平方メートル。「県猟友会丹波支部」とシカ肉加工販売会社「丹波姫もみじ」、シカ肉を使ったドッグフード製造販売

会社「EGサイクル」でつくる「鹿加工組合丹波」(深田晋三組合長)が、国の補助金約2600万円を活用し、丹波姫もみじの敷地内に建設した。施設には、最大20頭のシカを保管できる冷蔵庫や冷凍庫のほか、内蔵を抽出する一次処理室、精肉や包装をする二次処理室を設置。受け入れたシカを解体し、食肉用と非食肉用、皮に分け、非食肉用はドッグフードの原材料に加工し、EGサイ

クルに納入する。丹波姫もみじによると、食肉にできるのは1頭で3分の1ほど。残りは埋め立てや焼却するなど廃棄処分しており、環境悪化や焼却費用への対応が課題になっていたという。

同社の柳川瀬正夫「シカ1頭を丸ごとできる施設は全国珍しいと思うし、駆けになれたら」と。式典では、狭宮上山和洋宮司によが行われた。深田は「鹿肉を加工すでなく、販売にもれていきたい」とつした。



施設内を見学する参加者=氷上町谷村で